

道の駅「しもつけ」3月26日オープン!

下野市と国土交通省が整備してきた道の駅「しもつけ」が、3月26日(土)に栃木県で18番目の道の駅としてオープンしました。

当道の駅では、道路利用者向けの休憩施設の他、情報発信機能、地域連携機能を備えており、地元農家が丹精を込めて生産した新鮮で安全・安心な農畜産物を販売する直売施設や地元の特産品を販売する物産施設が設置されています。

また、地元食材を活かしたメニューを提供するレストランや軽食コーナーをはじめ、焼きたてパンやジェラート、おやきを提供するお店もあります。

さらに、市民の皆さんが会議や交流ができる150名収容の研修室、地元農産物を調理できる体験学習室も備えており、下野市の良さを伝えるふれあいの場を提供します。

道の駅「しもつけ」の自慢の一つとして、高さ14メートルの物見塔があります。この物見塔から一望できる道の駅周辺の田園風景や日光連山、筑波山の絶景が、お客様の心を癒します。

さらに、物見塔に連結した滑り台は、子供たちの遊び場としても人気です。

ぜひ、ご家族皆さんでお越しください。心よりお待ちしております。



届け! 農家の声!

2月2日(水)下野市国分寺公民館において「下野市農業者懇談会」が開催されました。

講演と意見交換会の二部構成で行われ、農業委員、認定農業者、農業士、農村生活研究グループ、4Hクラブなどから120名が参加しました。

栃木農政事務所の佐藤課長による戸別所得補償制度の概要に続いて、下都賀農業振興事務所の水沼所長による戸別所得補償制度を利用した生産振興についてや、関東農政局の薄井課長補佐による農業の6次産業化についての説明がありました。

引き続き行われた意見交換会では、農業委員からも4名の方が質問を行い、戸別所得補償制度の継続や、制度の利用に当たって利便性を高めてもらえるようななどの要望が出されました。その他の参加者からも、TPPIに関して農業者が大変に不安に思っていることや、耕作放棄地の解消につながる新たな補助金制度の創設など、農業の将来に関することや農村をめぐる情勢及び様々な課題に直面している現状について多くの意見や貴重な体験談などが話され大変有意義な懇談会となりました。

今回の懇談会で提案のありました意見・要望については、農業委員会系統組織を活用して、国・県の施策に反映されるよう進めて参ります。

